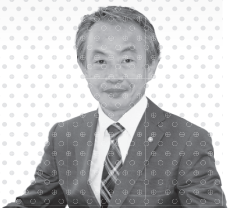


町長発!“がんばる” トーク

町長 上川 元張



皆さんは若桜駅と道の駅をつなぐ跨線橋の設置計画をご存知ですか。町では、議会の全面的な賛同をいただいて、昨年度から検討に着手していますが、今年度予定している詳細設計を前にパブリックコメントを実施したところ、駅構内の景観阻害や費用対効果等を心配する声が寄せられました。そこで今月号では、改めて設置目的等を説明したいと思います。

若桜駅と道の駅は直線距離では200mほどですが、現状は町道屋堂羅1号線を経由するしか往来手段がないため、倍の距離を要し、両駅は分断された格好となっています。若桜駅構内を跨ぐ形で跨線橋を設置し、両駅を最短距離で結べば、双方向での人の往来が増加します。これにより観光客の滞在時間を増やし、飲食店の利用や土産物の購入など地域経済の振興につながることも一つの目的です。加えて、橋上でSL、DLや転車台など構内のレトロな雰囲気を感じていただけて、橋そのものに新しい観光的な価値を持たせることもできます。

アフターコロナで人の動きが活発化し、駅周辺や宿内への観光客は増えています。道の駅にはオートバイ神社もできて、休日は多くのライダー等で賑わっています。両駅をつないで円滑な人の流れを創出する

意義は高まっていると感じます。

また、町民にとっても、従来より若桜駅付近と道の駅との往来に不便を感じておられることは確かであり、当然のことながら、町民の利便性の確保も目的の一つです。

一方で、橋の設置には、設計費や建設費等の費用が掛かる見込みです。決して少なくない金額ですが、それ以上に、観光客の増加による地域経済効果や町民の利便性の向上など金額には換算できない効果を見込んでいます。景観の面については、設置する以上、影響は避けられませんが、鉄道敷地内の施設として違和感のない外観となるよう検討していきます。また、バリアフリーの面では、手すりや点字ブロックの整備を予定しています。車椅子対応も様々に検討しましたが、スロープやエレベーターの設置はスペースや経費の問題で困難であり、ソフト面での対応を引き続き検討していきます。

色々とご意見はあると思いますが、観光による地域経済の振興と雇用の確保は人口減少対策の重要なポイントだと思いますし、跨線橋の設置を契機に、今後、駅周辺や宿内のまちづくり構想の検討にもつながりたいと考えています。町民の皆様のご理解をお願いします。